

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

50 歳以上ドナーを用いた生体肝移植におけるレシピエント救命のために必要な因子とドナーリスク

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 肝臓・胆のう・膵臓・乳腺外科

【研究責任者】 高田 泰次（肝臓・胆のう・膵臓・乳腺外科 教授）

【研究代表者】 九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野 准教授 吉住朋晴

【研究の目的】

生体肝移植は肝不全に対する根治療法として確立されてきました。高齢化社会を迎える日韓両国で、今後、生体ドナー候補の高齢化が予想されます。高齢化に伴い、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの合併症を持つドナー候補の増加が予想されますが、このようなドナーに肝切除を行い、グラフトを摘出することが適切か否か今後の重要な検討課題です。しかし、単施設での症例数には限りがあるため、日韓両国の多施設による大規模な検討での症例集積が必要と考えています。肝移植後レシピエントの短期生存に關与するものとして、グラフト肝のサイズ、レシピエントの術前状態、肥満、ドナーの年齢などが報告されています。50 歳以上のドナーを用いた生体肝移植を安全に施行する際に、必要なドナー（グラフトの種類、サイズ）及びレシピエント因子（MELD 値、BMI、術前状態）を明らかにし、ドナーのリスク・合併症の頻度を日韓両国から発信することを本研究の目的とします。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 2013 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日までに急性あるいは慢性肝不全の診断で 50 歳以上のドナーを用いて生体肝移植を施行し

た患者さんを対象にします。

(利用するカルテ情報)

A) 基本情報：

ドナー：手術時年齢、性別、生年月、既往歴、生活歴、症例識別番号、手術年月日、

血液型、続柄、身長、体重、高血圧・糖尿病・高脂血症治療歴。

レシピエント：手術時年齢、性別、生年月、既往歴、生活歴、症例識別番号、手術年日、原疾患、身長、体重、術前状態。

術前検査データ：WBC、好中球(%)、リンパ球(%)、単球(%)、Hb, Ht, 血小板、

Alb, T-bil, PT-INR, BUN, Cr, HBs 抗原, HCV RNA, CRP, MELD 値, Child-Pugh 値, AFP, PIVKA-II、肝臓合併の有無

B) 治療経過：

ドナー：グラフトの種類、グラフト重量、手術時間、出血量、術中輸血の有無、術後輸血の有無、再手術の有無、術後合併症、術後入院期間、術後 T-bil 最高値、術後 ALT 最高値、術後 PT-INR 最高値

レシピエント：リツキシマブ使用の有無、手術時間、出血量、輸血の有無、脾臓摘出の有無、門脈血栓の有無、菌血症・CMV 抗原血症の有無、免疫抑制剤の種類と投与量、拒絶反応の有無、再手術の有無、術後合併症、術後入院期間、術後 14 日目の T-bil・PT-INR・腹水量、予後、最終観察日

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータ/試料は、匿名化されて、CD-R に保存した電子ファイルを郵送することによって九州大学病院・施設に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

九州大学病院 消化器・総合外科 吉住朋晴

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院肝臓・胆のう・膵臓・乳腺外科 小川 晃平

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5327